

令和4年度 事業報告書

(期間：2022年4月1日から2023年3月31日まで)

法人の名称 特定非営利活動法人 ダイヤモンド・フォー・ピース

1 事業の成果

2022年度は、①啓発事業においては、啓発動画の制作等の啓発ツールの開発に取り組んだ。国内外の対象者に向けて対面・オンラインによる啓発活動を実施した。また、消費者及び販売企業のダイヤモンド関連課題に対する意識調査の結果を「2022 ダイヤモンド白書」(和文・英文)として取りまとめウェブサイトにて公開した。ロシアによるウクライナ侵攻をうけ、国際平和情報サービス(IPIS)のハンス・メルケト著、原題「IPIS Insight Russian Diamond and the War in Ukraine」を日本語に翻訳し団体のウェブサイトにて公開した。

②自立支援事業においては、2020年度より継続している採掘者への養蜂研修の結果、はじめてハチミツを収穫することができ、採掘者の収入向上に繋がった。また、2022年度はダイヤモンド原石評価基礎研修開催の他、採掘専門家を招きダイヤモンド採掘の現地調査及び責任あるダイヤモンド採掘の基礎ワークショップを開催し、効率的で環境に優しいダイヤモンド採掘に向けた取り組みを開始することができた。

④その他の事業では、受託事業等を行った。

主な事業内容は以下のとおりである。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 啓発事業

ア ウェブサイト、SNS、機関誌、メールマガジンによる啓発活動

・内容

Facebook、Instagram、Linkedin等のSNSを用いて、活動の進捗報告やイベント開催等を定期的に周知した。

また、機関誌「The Journey」第6号(2022年6月発行)を発行し、リベリアの活動対象村におけるダイヤモンド原石評価基礎研修、採掘組合の実施する養蜂活動、石けん作り、公共トイレ建設、キンバリープロセス市民社会連合が作成した動画「ダイヤモンドについて語ろう(原題: We need to talk about diamonds)」の日本語字幕版の公開について紹介した。また、運営メンバー、法人会員や寄付者、ボランティアを同機関誌にて紹介した。同機関誌は英語と日本語の併記で、日本・海外における広報啓発ツールとなっている。なお、機関誌は紙面の配布に加え当法人ウェブサイトからもダウンロードすることができる。

・日時 2022年4月～2023年3月

・場所 当法人事務所他

・従事者人員 のべ15人

・受益対象者 当法人のウェブサイト、Facebook ページ、Instagram アカウント、Linkedin ページにアクセスする者およびメールマガジン購読者 のべ141,631人

・支出額 142,000 円

オンラインの媒体	投稿数/配信数	リーチ数（訪問数）	備考・詳細等
日本語ウェブサイト	12	65,164	95,534 (PV)
英語ウェブサイト	10	10,031	17,228(PV)
Facebook ページ	113	33,492	--
Instagram	116	11,316	--
Linkedin	21	14,812	--
日本語メールマガジン	7	4,442	のべ購読者数
英語メールマガジン	5	1,030	のべ購読者数
機関誌「The Journey」	1	1,344	769(紙面配布数) 575(ダウンロード数)*
合計	285	141,631	--

*2022/7/3～本報告書執筆時点までのダウンロード数

イ 講演・講義活動

・内容

2022 年度は、日本国内及び海外の対象者に向けて、対面・オンラインで講演・講義を実施した。講義・講演の内容は、対象者及び主催者の意向により、ダイヤモンドに関する課題、サプライチェーンの課題、広義の平和、環境問題・保護などを取り上げた。

・日時 2022 年 6 月～2023 年 2 月

・場所 対面・オンライン

・従事者人員 のべ 4 名

・受益対象者 ダイヤモンドに関する課題、サプライチェーンの課題、広義の平和、環境保護国際協力に興味のある小学生、大学生及び社会人 213 名

・支出額 5,361 円

●講演・講義活動実績

No.	開催日	講演主催者	内容	参加人数
1	6 月 29	英国宝石学会（Gem-A）（対面）	DFP 活動紹介（原石評価基礎	12 名

	日		研修を含む)	
2	9月2日	Japan Jewellery Fair (JJF)	ジュエリービジネスにおけるSDGs 取組のヒント DFP 活動紹介、ジュエリー業界における責任ある調達とは？	49名
3	9月7日	内閣府有志朝活勉強会	ダイヤモンドにまつわる問題と当会の取組	19名
4	9月9日	Jewellery Valuers Association	Diamonds can't fly planes (原石評価研修に関する発表)	50名
5	12月9日	桜美林大学 (対面)	環境 NPO・NGO 「ダイヤモンド採掘労働者の現状と私たちの取り組み」	38名
6	1月23日	京都葵小学校	探求学習 平和ゼミ 「平和ってなんだろう。～モノと平和のつながり～」	20名
7	2月2日	London Diamond Bourse	Diamond Can't Fly Planes (原石評価研修に関する発表)	25名
				213名

ウ. イベントの開催

・内容

イと同様に、日本国内や英語圏対象者向けのイベントを対面・オンラインにて開催した。

また、国内外の団体が主催するイベントに参加し、ダイヤモンドサプライチェーンにおける問題や当会の活動を啓発した。

・日時 2022年5月～2023年3月

・場所 下表参照

・従業者人員 4人

・受益対象者 ダイヤモンドに関する課題、サプライチェーンの課題、ロシア産ダイヤモンド、ラボグロウンダイヤモンド、宝飾、鉱山、リベリアにおける活動に興味のある社会人 323名

・支出額 301,000円

●当法人主催イベント

No	開催日	イベント名	内容	場所	参加人数	録画視聴数*
1	5月30日	DFP Webinar “Basic Training on Rough Diamond Grading and Valuation in Liberia”（英語）	・ダイヤモンド原石評価基礎研修プロジェクトの紹介	オンライン	22名	57
2	6月29日	DFP オンラインセミナー 「誰もが幸せになるダイヤモンドの実現に向けて」（日本語）	DFP 活動紹介（原石評価研修を含む）、ウクライナ侵攻後のロシア産ダイヤモンドの動向、ラボグロウンダイヤモンドについて、「ダイヤモンドについて語ろう」映画上映	オンライン	24名	46
3	12月21日	DFP Christmas Drinks & Discussion	DFP 活動紹介	対面	20名	18
4	3月24日	Myths in Artisanal Diamond Mining（英語）	DFP 活動紹介、宝石鑑定士・鉱山専門家による、鉱山労働者間に伝わる迷信とそれが阻む開発及び解決方法への示唆	オンライン	48名	85
小計					114名	206
合計					320名	

*録画視聴数は本報告書執筆時点での数

●外部イベントへの出展

No	開催日	イベント名	内容	主催者	参加人数
1	12月2日	EARTHEO 個展でのトークイベント	ダイヤモンド採掘労働者の現状と私たちの取り組み リベリアからの近況報告	EARTHEO	3名
合計					3名

エ 動画「ダイヤモンドについて語ろう～採掘の代償を払っているのは誰？」日本語字幕制作

・内容

キンバリープロセス市民社会連合が作成した動画「We need to talk about diamonds」の日本語字幕版を制作、団体のウェブサイト、キンバリープロセス市民社会連合の YouTube チャンネルにて公開した。本動画では、採掘労働者自らが労働環境の実態を語り、ダイヤモンドの研磨業者・販売業者も登場し、現状への見解を述べている。

- ・日時 2022年4月～2022年5月（前年度より継続）
- ・場所 当法人事務所他
- ・従業者人員 6人
- ・受益対象者 世界で手掘りダイヤモンド採掘に従事する労働者およそ 1,300 万人
- ・支出額 0 円

動画名	YouTube 上視聴数*
動画「ダイヤモンドについて語ろう」	117

*視聴数は本報告書執筆時点での数

オ 動画「Children's Dream」制作

・内容

当法人の活動対象地域であるリベリア西部のダイヤモンド採掘村で暮らす子どもたちが将来の夢について語る動画の英語版及び日本語版を制作した。2022 年度に団体の英語ウェブサイトで公開し、2022 年 6 月に、日本語字幕をつけた動画を日本語ウェブサイトにて公開した。

- ・日時 2022年4月～2022年6月（前年度より継続）
- ・場所 当法人事務所他
- ・従業者人員 4人
- ・受益対象者 リベリア西部の活動対象ダイヤモンド採掘村に暮らす人々およそ 5,000 人
- ・支出額 0 円

動画名	YouTube 上視聴数*	Instagram 上視聴数*
Children's Dream（英語版）	99	92
ダイヤモンド採掘村に暮らす子どもたちの夢（日本語版）	920	932
小計	1,019	1,024
合計	2,043	

*視聴数は本報告書執筆時点での数

カ 消費者及び販売企業のダイヤモンド関連課題に対する意識調査

・内容

2016 年度に実施した以下 3 つの調査を 2021 年度に再度実施し、経年変化を検討した。調査結果を 2022 年度に「ダイヤモンド白書（和文）（英文）」としてとりまとめ、和文版を 7 月、英文版を 10 月に団体のウェブサイト公開した。

1) ダイヤモンド製品を扱う 119 ブランド及び販売企業に対する意識調査

全国のダイヤモンド製品を扱うブランド及び販売企業 119 社に書面にてダイヤモンドの人道・環境配慮に関する調査票を配布し、5 社より回答を得た。

2) ダイヤモンド製品を扱う 33 ブランドショップでの覆面調査

首都圏に実店舗を構える 33 ブランドを訪問し、覆面調査を実施した。ブランドが取り扱う婚約指輪などのダイヤモンド製品について産出国や研磨した国等、製品のトレーサビリティに関する質問を店員に行なった。

3) 一般消費者 1,000 人を対象としたインターネット意識調査

インターネット調査会社を通じ全国の 20～60 代の男女 1,000 人を対象に、ダイヤモンドの人道・環境配慮に関する意識調査を実施した。

- ・日時 2022 年 4 月～2022 年 10 月（前年度より継続）
- ・場所 当法人事務所他
- ・従業者人員 7 人
- ・受益対象者 直接受益者：国内外の「ダイヤモンド白書」の読者 395 人
間接受益者：以下の調査協力者
上記 1) 調査対象企業 119 社
上記 2) 覆面調査対象店舗 33 店舗
上記 3) インターネット意識調査対象者 1,000 人
- ・支出額 159,630 円

報告書名	ダウンロード数
ダイヤモンド白書（和文）	270
Awareness Survey Report（英文）	125
合計	395

キ 書籍「ロシア産ダイヤモンドとウクライナ戦争」の日本語翻訳版の発行

・内容

国際平和情報サービス (IPIS) のハンス・メルケト著、原題「IPIS Insight Russian Diamond and the War in Ukraine」を日本語に翻訳し 2022 年 6 月に団体のウェブサイトにて公開した。同書籍は、2022 年にダイヤモンドの最大生産国であるロシアがウクライナへ侵攻したことのジュエリー業界への影響、ロシアのダイヤモンド業界のウクライナ侵攻との関わり、キンバリープロセスへの影響等を分析している。

- ・日時 2022 年 4 月～2022 年年 6 月（前年度より継続）
- ・場所 当法人事務所他
- ・従業者人員 4 人
- ・受益対象者 ロシア産ダイヤモンドに興味のある者 456 名
- ・支出額 0 円

書籍名	ダウンロード数
ロシア産ダイヤモンドとウクライナ戦争	456

② 自立支援事業

・内容

ア ダイヤモンド原石評価基礎研修の実施

・内容

リベリア共和国西部でダイヤモンド採掘が盛んなバボル州、ボミ州に所在する 17 村を対象とし、村を代表する採掘者を対象に、ダイヤモンド原石評価基礎研修を開催した。同研修参加者はその後、村の他の採掘者たちを対象に知識共有会を開催した。全 17 村で知識共有会が開催されたことを、モニタリングし確認した。

- ・日時 2022 年 4 月～5 月
- ・場所 リベリア共和国バボル州及びボミ州
- ・従事人数 6 人
- ・受益対象者 直接受益者 リベリア国西部 17 村でダイヤモンドを採掘する者 406 人
間接受益者 直接受益者の家族 約 2,800 人
- ・支出額 2,301,000 円

研修名	参加者数
ダイヤモンド原石評価基礎研修ワークショップ	25
ダイヤモンド原石評価基礎研修知識共有会	381
合計	406



ワークショップでルーベの使い方を習う参加者たち（写真提供 Tomo）



ヤンガヤ村での知識共有会の様子

イ ダイヤモンド採掘の現地調査及び責任あるダイヤモンド採掘の基礎ワークショップの実施

・内容

リベリア共和国ウィズア村におけるダイヤモンド採掘の現状と課題を確認するため、米国から採掘専門家を招き現地調査を実施した。調査では採掘の基礎的なワークショップも実施し、5日間でのべ178名（採掘組合員、採掘労働者グループ、女性グループ、近隣地域の採掘者/採掘労働者等）が参加した。基礎ワークショップの目的は、効率的な採掘のための簡単な探査方法やより多くのダイヤモンドを採掘するための効果的な選鉱方法（砂利からダイヤモンドを探す作業）、採掘後に鉱山を埋め戻すこと（閉山）の重要性を採掘者が理解することである。

ワークショップでは、ダイヤモンドの探査～試掘～採掘～選鉱～閉山という採掘のライフサイクルの基礎を中心に指導を行った。このワークショップを通じて、採掘者はどこを掘ればよいかわからないまま手当たり次第に穴を掘っていたこと、選鉱の段階で科学と相反する迷信（ダイヤモンドは石よりも重い、ダイヤモンドは磁石に反応する、ダイヤモンドには超自然的な力がある等）を長年信じていたため、ダイヤモンドの回収率が低いことが判明した。本調査結果と提言は専門家による調査報告書にまとめられ、2023年度の活動計画に反映する予定である。

- ・日時 2022年12月
- ・場所 リベリア共和国バボル州ウィズア村
- ・従事人数 6人
- ・受益対象者 ウィズア採掘農業組合員、採掘労働者グループ、女性グループ
近隣地域の採掘者/採掘労働者等 のべ178名
- ・支出額 2,500,400円



採掘専門家（左から3人目）が新しい選鉱道具を用いてダイヤモンドを効果的に見つける方法を教える様子。



ダイヤモンドは同じサイズの石よりも重いという迷信を覆すため、採掘者がダイヤモンド及びほぼ同じ重さの石を実際に測定し確認している様子。

ウ アグロフォレストリー研修の実施

・内容

ウィズア村では手掘りによるダイヤモンド鉱山開発を行っているが、探査技術の無い現地住民達は手当たり次第に森林を開拓し鉱山としている。ダイヤモンドを掘りつくした後の鉱山は適切な閉山がされないまま放棄され、ウィズア地域には50以上の放棄鉱山跡地がある。跡地には周囲から浸みだした水が溜まった人工池が点在し農地としての再利用が困難な他、マラリアを媒介する蚊の幼虫の発生源となっている。当会は森林破壊を食い止める閉山活動を推進するとともに、採掘者が閉山活動から経済的利益を得られるようにするため、2022年9月よりリベリア人アグロフォレストリー専門家と協力し、アグロフォレストリー活動（木を植え森を管理しながら、その土地で果樹や野菜を栽培する手法）を開始した。組合との協議の結果、特定した鉱山跡地1エーカー（約1224坪）に在来種のオレンジの木を植えるため埋め立て活動を実施している。2023年3月時点で発芽したオレンジの苗約280個を育成中である。また、これまでに1）発芽率の高い良い種の見分け方、2）まき床の準備方法、3）作物にあわせた養分の多い土作り、4）苗床の作り方、5）自然由来の原料を用いた害虫管理、6）有機肥料づくり、7）畑の整地と放棄鉱山の埋め立て方、に関する計5回の研修を実施し、のべ170名が参加した。

- ・日時 2022年9月～2023年3月
- ・場所 リベリア共和国バボル州ウィズア村
- ・従事者人員 5名
- ・受益対象者 ウィズア採掘農業組合員約50名
- ・支出額 1,400,010円



発芽率の高い良い種を選定している様子



育成中のオレンジの苗の様子

エ 養蜂活動のフォローアップの実施、ハチミツ収穫前研修及び養蜂中級研修への参加

ダイヤモンド採掘者の安定した収入源を確保するために、NGO ユニバーサル・アウトリーチ・ファウンデーション (UOF) の協力により、2020 年より養蜂活動を支援している。ウィズア採掘農業組合はロファ・マノ国立公園近くの森林におよそ 120 個の巣箱を設置し、2023 年 3 月時点で約 30 人がダイヤモンド採掘の傍ら、養蜂に取り組んでいる。2022 年度は UOF を通じて養蜂活動のモニタリングを年 4 回実施し実施研修を行った。また、ハチミツの収穫に備えるため 6 月には 7 名がハチミツ収穫前研修に参加、養蜂技術向上のため 11 月に 4 名が養蜂中級研修に参加し、巣箱の管理方法や副産物のミツロウを使用した石けん・クリーム等の生産方法等について学んだ。2022 年 8 月にはじめてハチミツを収穫し、2023 年 3 月までに約 20 ガロン (約 75kg) を収穫した。2023 年 3 月時点で、養蜂活動の指導や管理監督を担う養蜂普及員数は 9 名、ミツバチが住み着いた巣箱の数は 39 個まで増加した。組合員は養蜂及びアグロフォレストリー活動を通じて森林保護の重要性への理解が深まっており、養蜂活動を行う地域の木の伐採禁止を地域住民に求めている。ハチミツをはじめて収穫したことで、自主的に巣箱を設置する組合員が増加しており、収入が向上している。

- ・日時 2022 年 4 月～2023 年 3 月
- ・場所 リベリア共和国バボル州ウィズア村
- ・従事者人員 6 名
- ・受益対象者 ウィズア採掘農業組合員約 50 名、村のリーダー、女性等 70 名
- ・支出額 1,100,005 円



ハチミツの収穫を喜ぶ組合員



ハチミツの収穫を実施する様子

オ 養殖池の建設及び稚魚の放流

・内容

当会では 2021 年 7 月よりウィズア村のダイヤモンド採掘者の収入多様化と安定のため、ウィズア採掘農業組合が実施する魚の養殖池の活動を支援している。2022 年 12 月、手掘りにより作られた 20m 四方の養殖池 3 つのうち 1 つの池に、ティラピアの稚魚 228 匹が放流された。残り 2 つの養殖池も 2023 年 3 月に完成し、それらの養殖池の中央にはリベリア人の主食である米が植えられた。稲は魚に日陰と餌を与え、魚のフンは稲の養分になることから相乗効果がある。稚魚の放流の前には、養殖を指導するリベリア人専門家の指導の下、透明度版を使用した水質管理の方法、土壌管理、餌の計量や餌やりの頻度などを学び、組合員が自分たちで養殖池を管理できるよう支援した。

- ・日時 2022 年 4 月～2023 年 3 月
- ・場所 リベリア共和国バボル州ウィズア村
- ・従事者人員 6 名
- ・受益対象者 ウィズア採掘農業組合員約 50 名
- ・支出額 400,000 円



稚魚を放流する様子



池の真ん中に米を植え完成した養殖池

カ 公共トイレ第一号棟のモニタリング

・内容

ウィズア村の住民の約8割は自宅にトイレがなく森や川で排泄しており、現地の環境破壊は深刻である。トイレの建設は地域が解決したい第一の優先課題として挙げていたため、当会は2021年度に最初の公共トイレの建設を支援し、トイレ管理委員会を設置した。同トイレの受益家庭数はその近隣に住む25世帯で受益者数は約180人である。ウィズア地域には約5,000人の住民がおりトイレは依然不足している。

2021年3月に完成した第1号棟のトイレはウィズア村のスリップウェイ集落の一角にあり、21世帯の住民によって使用されている。スリップウェイは別名「うんち川」で、ほとんどの人が近くの小川で排泄していたためそのように呼ばれるようになった。トイレを使用している住民への聞き取りでは、屋外排泄による悪臭が減った、トイレができたので遠いところまで行って用を足す必要がなくなり助かった等のコメントが寄せられた。モニタリング結果としては、鍵を管理する担当者がトイレの管理・清掃を行い維持管理が行われているものの、毎月の使用料金を全世帯から徴収することに課題があることが判明した。モニタリング結果を踏まえ、トイレ管理委員会は利用規約の見直しを行い規約に違反した住民への罰金を課す等の対応を実施している。

- ・日時 2022年4月～2023年3月
- ・場所 リベリア共和国バボル州ウィズア村
- ・従事者人員 6名
- ・受益対象者 ウィズア村スリップウェイ集落の21世帯（21世帯×7名(1世帯の平均)＝147名）
- ・支出額 500,000円



公共トイレ第一号棟の現在の様子



トイレの鍵を管理する管理人

キ 公共トイレ2号棟の建設

・内容

ウィズア村の集会において当会より2つ目の公共トイレの設置計画を発表し、設置を希望する集落から企画書を募った。マンディンゴ集落より唯一企画書が提出されたため、企画書の中身を精査し村のリーダーから正式に承認を得た。住民の主体性を引き出すため、集落が提供する資材（砂、水、

レンガ等)や労働者名簿等の詳細が記載された公共トイレ設置計画書が作成された後にトイレ建設に着手した。2023年3月に公共トイレ第2号棟が完成し、マンディンゴ集落に引き渡しを行った。運営・管理に関してはトイレ管理委員会を設置し、使用規則や維持管理費の集金額について協議・決定した。裨益世帯数は30世帯(30世帯 x 7名(1世帯平均)=210名)である。

- ・日時 2022年10月～2023年3月
- ・場所 リベリア共和国バボル州ウィズア村
- ・従事者人員 6名
- ・受益対象者 ウィズア村のマンディンゴ集落 30世帯(30世帯 x 7名(1世帯の平均)=210名)
- ・支出額 1,400,000円



完成した公共トイレ第2号棟



マンディンゴ集落へのトイレ引き渡しの様子

ク ウィズア村小中学生に対する環境教育研修の実施

・内容

当会ではウィズア村の喫緊の課題であるゴミ問題への支援も開始した。ウィズア村の住民はゴミの捨て方に関する正しい知識がなく、川や茂み等いたるところにゴミをポイ捨てし、環境に悪影響を与えている。リベリアに公的なゴミ収集サービスはなく、ごみ処理の問題はウィズア村に限らずリベリアの全国的な問題である。

2022年11月4日及び7日の2日間において、ウィズア村の小中学生101名を対象にゴミ処理に関する環境教育研修を実施した。研修は座学と屋外活動の2部構成で、ゴミが人間や動物、環境に与える影響や地域をきれいに保つことの重要性を学び、実際にゴミ拾いとゴミの分別方法を体験してもらうことで生徒のゴミ処理に関する理解が深まった。本研修には、衛生促進委員会のメンバーや学校の教師も参加した。研修の効果を測定するために事前テストと事後テストを実施し比較し、理解度の到達度合いを確認した。

- ・日時 2022年11月
- ・場所 リベリア共和国バボル州ウィズア村
- ・従事者人員 6名
- ・受益対象者 ウィズア村小中学生101名、教師2名、衛生促進委員会のメンバー2名 合計105名

・支出額 540,000 円



座学の講義の様子



生徒によるゴミ拾いの様子

ケ 衛生促進委員会によるクリーン・キャンペーンの実施

・内容

2021 年度に実施したウィズア村におけるゴミ放置場所のマッピング結果を受けて、地域住民 10 名による衛生向上委員会が発足した。2022 年 10 月には村のリーダーからの正式な許可を得て、衛生促進委員会は地域の美化のための活動を開始した。11 月には委員会主導によるクリーン・キャンペーンを実施し、燃やせるゴミ、燃やせないゴミ、リサイクルゴミの 3 つに分類したゴミ置き場を設置した。地域住民は自分たちの家から出たゴミをこのゴミ置き場まで持参し、衛生管理委員会がゴミ処理を行うこととなった。11 月に実施した小学校で実施した環境教育研修には、衛生促進委員会から 2 名の代表者が参加し、彼らが実施している地域美化の取り組みについて生徒たちへ紹介した。今後は、衛生促進委員会が進行役となり、子どもたちに環境教育研修を実施できるよう支援をしていく予定である。

- ・日時 2022 年 10 月、11 月
- ・場所 リベリア共和国バボル州ウィズア村
- ・従事者人員 6 名
- ・受益対象者 衛生促進委員会のメンバー 10 名、ウィズア村住人約 2,000 名
- ・支出額 350,000 円



衛生促進委員会によるゴミ拾いの様子



環境教育研修に参加した衛生促進委員会のメンバー（写真右の2名）

コ 採掘組合支援活動

・内容

当会はウィズア採掘農業組合の運営能力強化を目的に、以下の活動に関して継続的な支援を実施した。

2023年2月には組合としてダイヤモンド採掘権(Class C)の申請が完了し、今後正式に組合としてダイヤモンド採掘を実施する計画である。

- ◆ 組合の年次報告書及び財務レポートの作成支援
- ◆ 組合の定期活動、定期会議開催の促進
- ◆ 基本的な記録作成方法の指導と記録確認、助言
- ◆ 組合が実施している活動のモニタリング、助言

また、組合の下部組織である採掘労働者グループによる石けんの生産・販売、女性グループによる米・油の調達・販売状況をモニタリングし、出納帳記帳や資金管理等のアドバイスを実施した。

- ・日時 2022年4月~2023年3月
- ・場所 リベリア共和国バボル州ウィズア村
- ・従事者人員 5名
- ・受益対象者 ウィズア採掘農業組合員約50名及びその下部組織員約70名
- ・支出額 250,000円



ウィズア採掘農業組合との会議の様子



採掘労働者グループとの会議の様子

サ 手掘り小規模採掘カンファレンスへの参加

・内容

2021 年度に実施したりベリア西部 17 村を対象とする新型コロナウイルス感染症緊急支援及び 2021 年度から 2022 年度にかけて実施したダイヤモンド原石評価基礎研修は、世界銀行 The Extractives Global Programmatic Support (EGPS) 信託基金による助成を得て実施したものである。新型コロナウイルス感染症の蔓延により、以前から貧困にある手掘り小規模採掘者たちがより脆弱な立場におかれたことを危惧し、EGPS 信託基金はその影響を緩和するために鉱物の手掘り小規模採掘者たちを対象とする事業に助成を行った。

世界銀行 EGPS 信託基金は鉱物の手掘り小規模採掘セクターに関するカンファレンスをケニアのナイロビで主催した。同基金の助成を受けた約 30 団体及び同セクターで事業を行う企業や団体が参加し、事業実施により得た教訓を共有し、ネットワーキングを行った。リベリアの採掘者を代表しウィズア採掘農業組合長、及び助成事業責任者として団体代表理事の村上が出席した。

- ・日時 2022 年 12 月
- ・場所 ケニア国ナイロビ
- ・従事者人員 2 名
- ・受益対象者 ウィズア採掘農業組合員約 50 名及びその下部組織員約 70 名
- ・支出額 700,000 円

③緊急支援事業

2022 年度は実施しなかった。

④その他の事業

ア コンサルティング事業

- ・ 内容

- ◆ 受託事業の実施

世界銀行 EGPS 信託基金からの発注を請け、リベリアの手掘り小規模ダイヤモンド採掘村における新型コロナウイルス感染症前後の暮らしや採掘活動の変化に関する調査を実施した。

- ・ 日時 2022 年 7 月～2022 年 12 月
- ・ 従事者人員 4 名
- ・ 受益対象者 発注機関が公開する報告書や資料を読む人々 約 1,000 人
- ・ 支出額 1,394,002 円

イ 教育事業

- ・ 内容

2022 年度は主に以下の案件を教育事業として実施した。

- ◆ 各種学校・団体むけ講演

受託した講演を行った。

- ・ 日時 2022 年 12 月～2023 年 1 月
- ・ 従事者人員 2 名
- ・ 受益対象者 講演受講者約 60 名
- ・ 支出額 12,000 円